

2019年8月23日

四国電力株式会社  
取締役社長 長井 啓介 殿

伊方から原発をなくす会  
代表 近藤 亨子

### 伊方原発3号機の即時停止と廃炉を求めます。

2011年3月11日の東日本大震災による福島第1原発の事故から8年5ヶ月が経ちました。しかし事故は、収束するどころか未だに大量の放射能を海に陸に大気中にばら撒き続けています。オリンピック開催のために安倍首相が言った「汚染水は完全にコントロールされている」と言うのが嘘だと、もはや隠しようのない状況です。

福島第1原発事故は原発が重大事故を起こせば、人の命と尊厳を奪い、農地を奪い、生活基盤を根底から奪うという事を多大な犠牲を払って我々に教え示しました。また、福島事故以降の経験によって、原発はなくても何の支障もないことが示されました。しかも四国電力自体「供給力が需要を上回っている」と認めています。

四国電力は福島第1原発事故以降私たちの原発廃炉の要請に対して「CO2削減」を再稼働の理由の一つに挙げていました。しかし四国電力は火力発電所の新設計画を仙台で行い、地元の反対によって撤退。その後西条（愛媛県）で大型石炭火力発電所建設を始めました。原発再稼働の理由としていた「CO2削減」がまったくの嘘であった事を自ら露呈しました。伊方原発3号機は後15年で40年の期限を迎えます。その後のCO2削減の辻褄をどのように合わせるのでしょうか。そもそも2011年3月11日以降伊方原発3号機が動いていたのはわずかです。4カ所での裁判も継続しており、いつ止まるかわからない、とても「ベースロード電源」などと呼べるようなものではありません。

また原子力規制委員会との意見交換会において「運転サイクルの延長にトライしたい」と発言したことでも四国電力が福島原発事故を何の教訓にもしておらず、「同じ電力事業者として真摯に受け止めている。他人事とは認識していない」という市民団体との交渉の中での発言も口先だけであった事を証明しました。原発事故は「トライ」してダメでしたでは済まないものである事をまったく理解していない。助かったかもしれない命が原発事故のために数多く喪われた事がまったく見えていない。救助に向かえなかった人たちの苦しみがまったく理解できていない。この事に筆舌に尽くしがたい怒りを抑えることができません。

四国電力は基準地震動はあらゆる要素から見て最大の地震動であると自ら答えています。しかし、1号炉では200ガル、そしてその後、3号炉で473ガル、さらに570ガル、そして650ガルと、次々と基準地震動の数字が変わっていきました。最大の地震動がころころ変わる。そんなものを誰が信用できるのでしょうか。

日本は地震大国です。そして地震は正確には予測ができません。阪神淡路大震災以降でも想定をはるかに超える地震が起こっています。震源地もこれまで大地震が起きるとは予測されていない場所で次々と起きています。ましてや伊方原発は中央構造線が間近にあり、大地震が起こると言われている場所にあります。最大の地震動を平気でころころ変える四国電力がなぜ大丈夫だなどと言えるのでしょうか。

安倍首相の言った「日本の原発の安全基準は世界一厳しい」という言葉は規制委員長自身が口を濁すしかないようなものでした。また規制委は安全基準を「安全を保障するものではない」とまで言っています。4月にそのようないい加減な基準すら満たしていない状態である事を知った時には呆れると同時に恐怖を感じました。福島原発事故を経験した後でもなんの反省もなく平気でこのような杜撰な事の出来る政府や電力会社の、目先の利益のためには人の命を危険に晒す事になんの罪悪感もない利益優先の体質に対してです。事故が起きた時に必要とされている特定重大事故等対処施設がないまま運転がされている状態で万が一事故が起きても「想定外」で終わらせるつもりなのではないでしょうか。原発が停止している時に工事を行うこともできたのに、再稼働の1～2ヶ月前になってフィルター付きベント施設の建設先延ばしに言及しています。2016年から2019年の原発運転はまさに県民を騙して原発を動かしていたのであり、許されるものではありません。

そもそも電気を起こすためだけに「特定重大事故等対処施設」などというものが必要なほど危険な施設は絶対に動かすべきではありません。なぜ他に発電方法があるのにわざわざ「テロにあう」危険まで犯して原発を動かさねければならないのでしょうか。

伊方原発3号機を即時停止し、廃炉を決定してください。

私たちの再三に渡る危険性の指摘を無視して原発を動かし続けて事故が起きた場合、四国電力という会社のみならず経営責任者の故意による犯罪であり、絶対に許されないものである事を自覚されるよう通告しておきます。

以上